京都帝國大學經濟學會

經濟論叢

第五十三卷 第一號

昭和十六年七月

論叢

日本的經濟原理……經濟學博士 柴田敬

明治初年の諸藩の商社……經濟學士 堀江保藏

ナチス經濟團體の成立……經濟學士 靜田均

研究

チュウドル王朝の海運政策……經濟學士 佐波宣平

アダム・スミスに於ける愛國心と人類愛……經濟學士 白杉庄一郎

商工組合中央金庫について……經濟學士 田杉競

出產男女別の統計的研究……經濟學士 青盛和雄

說苑

會計學に於ける概念と用語の問題……經濟學士 尾上忠雄

廣域經濟の條件……經濟學士 上杉正一郎

法幣と匯劃……經濟學博士 小島昌太郎

附錄

彙報

外國雜誌論題

廣域經濟の條件

——フランツ・オイレンブルク著「廣域經濟とアウタルキー」[1]の紹介——

上杉正一郎

一

茲に紹介するオイレンブルクの「廣域經濟とアウタルキー」が出版されたのは一九三二年のことである。周知の如く、當時ドイツの經濟狀態は極度に悪化してゐた。此の窮狀に對する解決策として廣く採り上げられたのがアウタルキーの思想である。而もそれは國民的限界内に躊躇する國民的アウタルキーではなく、進んで此の限界を越えて廣域經濟(Grossraumwirtschaft)にまで擴大しようとするものであつた。かくてオイレンブルクの述べる如く「廣域經濟」は一の流行語とさへなつた。然るにオイレンブルクは「科學の任務は時代思潮に影響されることなく客觀的に事態の根本を究め現實的認識を與へるにある」(序文六頁)となし、當時の

1) Dr. Franz Eulenburg (o. Professor an der Handels-Hochschule Berlin), Grossraumwirtschaft und Autarkie, Kieler Vorträge 37., Jena 1932.

輿論を支配してゐた廣域經濟の思想に對して嚴しい批判を加へた。本書は其の批判のポイントを體系的に示したものであつて、緒論「廣域經濟及びアウタルキーに關する思想の成立——其の動機」及び一、廣域經濟の意義。二、廣域經濟の諸條件。三、廣域經濟の實現四、ドイツの道は世界經濟かアウタルキーか。五、國際經濟關係の問題性の五節より成り、前の二節に於ては廣域經濟の一般的基礎的問題を論じ、第三節以下に於て問題を具體的に展開してゐる。ここでは廣域經濟の一般的基礎的問題を扱つてゐる最初の二節に紹介の範圍を限定する。

二

廣域經濟の意義に關して其の論者達の主張する處をオイレンブルクは次の六項に要約してゐる。

第一、廣域の內部に於ては商品・資本・人間の自由な交換が行はれる。而して廣域經濟の長所は「廣域經濟內に於ける廣範圍の自足、卽ち輸入には全く依存せず或は極めて僅かしか依存しないこと」[1]に存する。

第二、廣域內に於ける貧しい區域と富める區域とを結合することによつて諸經營に對する均齊の取れた投資が行はれる。(註一)

第三、最も合理的な經濟的見地に從つて各產業部門の理性的な立地配分が行はれる。少くとも廣域內部に於ては過剩生產や工業・企業の不經濟な重複が避けられる。

第四、十分に賣行のある保護された大市場が確保される。

第五、廣域內に於ける景氣變動が調整される。(註二)卽ち一般に外國の輸入封鎖によつて直ちに外部から反動が起るものであるが、廣域經濟に於ては廣い內部市場が保證されてゐるのでかゝる反動が調整される。廣域內各部の收穫結果が相互に補足されるといふ事情も同樣の效果を有つてゐる。

第六、個々の小國を大なる全體に結合することによつて、貿易政策上效果の多い措置を講ずることが出來る。卽ちそれは個々の小國とは全く異る勢力と購買力

1) Franz Eulenburg, Grossraumwirtschaft u. Autarkie, S. 11.

とを表はすもので、現實的な大勢力を意味することとなる。

以上は廣域經濟論者の期待する處を要約したものである。「要するに廣域經濟の目標は、高度の自足、廣域内に於ける多面的生產と合目的的な分業、大なる内部市場に於ける利益ある販賣及び貿易政策上の勢力增大である。絕對的ではないにしても少くとも相對的な自足が目的である。[2]」

（註一）　オイレンブルクは之に反對して「資本は收益性を追ふ。計畫的な投資は自由な交易制度に於ては全く起り得ない[3]」と述べてゐる。

（註二）　この點に於てもオイレンブルクは否定的見解を有しアメリカ合衆國が廣域經濟に對して最も惠まれた條件を備へてゐるにも拘らず激しい恐慌を經驗してゐる事實を指摘してゐる。[4]

三

然らば廣域經濟の目標は如何にして達せられるか、之に對してオイレンブルクは「自足の理想を實現するには廣汎な前提が必要である[1]」となし、第二節廣域經濟の諸條件に於て「一般に廣域經濟が十分に意味を有つて存立すべき一般的諸條件[2]」を擧げてゐる。

先づ經濟的に見るに廣域經濟は次の如き諸條件を必要とする。

第一、十分なる土地の基礎　食料・原料・動力源等を供給し得る土地がなければならない。卽ち自足を考へる限り、穀物が必要である事は言ふまでもない。動物性食料（北方諸國に對しては特に脂肪）も同樣に必要であり、農業に對する肥料・飼料の供給も極めて重要である。尙この外嗜好品も缺くべからざるものである。（註一）更に「原料の獲得は廣域經濟が獨立自主的であるべき限り非常に肝要であつて、今日凡ゆる工業國の死活問題となつてゐる。蓋し諸工業國は依然として絕えず原料の購入に賴つてゐるからである。從來の經濟に對する近代經濟の特質は、技術上の要求と需要の變動とによつて原料の種類が甚しく多面的になつたことにある。[3]」又、水力・石炭・石油の如き動力源なしには近代的な工業或は農業を獨立自主的に建設することは出來な

2) Eulenburg, a. a. O. S. 14.
4) Eulenburg, a. a. O. S. 27.
1) Eulenburg, a. a. O. S. 14.
3) Eulenburg, a. a. O. S. 16.

3) Eulenburg, a. a. O. S. 11.

2) Eulenburg, a. a. O. S. 14–15.

い。

以上は廣域經濟の資源的基礎とも言ふべきものであつて「此の基礎の上にのみ現實的に領域と結合してゐる土着工業の創設・存續が保證される。」[4]

第二、輸送上の條件　前述の資源的基礎は廣域經濟に對する生産上の主要條件と見ることが出來るが、これだけでは未だ不十分である。「經濟的に考へれば決して最も安く生産すること自體は問題ではない。寧ろ最も安く供給し消費することこそ肝要である。然るに最良の供給が行はれるか否かは全く輸送負擔の如何に依るものである。」[5]本來廣域經濟は其の内部の距離が大であるといふ短所を有つてゐるのであるから、(註二)「距離あるが爲に販賣價格を高からしめるやうな輸送負擔」[6]を生じないことが特に大切である。

第三、市場の條件　廣域經濟論者は往々にして、「一億・二億・四億の人口ある領域は、人口五千萬・三千萬・一千萬の狹い領域とは全く異る購買力と意義とを有つであらう」[7]と考へるが、實は「購買力は單に人口數のみによつて與へられるものではない。」[8]「然らば購買力は何に依存するか、其の增加は如何にして達せられるか。凡て需要の著しい增加は人口の勞働能力及び勞働の意志と密接に關聯してゐる。」[9]而して具體的に之を見れば、購買力の增加は工業の成立と都市の發展とを前提とする。(註三)此の前提條件が充された時にのみ廣域經濟は購買力大なる市場を與へられるであらう。

右の經濟的諸條件(註四)の外に、オイレンブルクは尙二つの政治的或は社會的條件を擧げてゐる。

第一、共に廣域經濟に所屬してゐるといふ意識がなければならない。蓋し廣域内に含まれる各圏の經濟的利害關係は連帶的ではなく對立的であるから、かやうな共通意識なしには經濟的統一は存立し得ないであらう。

第二、統一ある經濟指導も亦不可缺の條件である。廣域經濟の内には幾多の異質的部分が結合されてゐるのであるから、統一ある經濟指導が行はれないならば各部分は夫々自己の利益を守り全體の統一を破るであ

4) Eulenburg, a. a. O. S. 17.
5) Eulenburg, a. a. O. S. 18.
6) Eulenburg, a. a. O. S. 19
7) Eulenburg, a. a. O. S. 12.
8) Eulenburg, a. a. O. S. 19.
9) Eulenburg, a. a. O. S. 19.

らう。

以上の經濟的並びに政治的諸條件の充されない限り「廣域經濟はもはや決して全體的なるものを形成せず、必ず世界經濟的關聯を必要とするところの部分的國民經濟を形成するに過ぎない。[10]」

（註一）「人間は決して刺戟物や嗜好品の攝取を斷念したことはなく、又明らかにそれは不可能である。若し上述の外國産嗜好品（珈琲・茶・煙草等）を輸入しないならば國内の土地に於て他の嗜好品を作らなくてはならない。[11]」

（註二）「合衆國に於ける唯一の不利な事情は距離の大なることである。この結果輸送負擔を生じ從つて商品の價格を騰貴させる。[12]」

（註三）「然るに不幸にして農業國の工業化こそ正に廣域經濟論者の妨げんとするところのものである。[13]」

（註四）更にオイレンブルクは、廣域經濟を靜態として考へてはならないこと即ち其の現在の土地の基礎ばかりでなく將來の發展の可能性をも斟酌すべきことに注意を向けて居り、又第四節に於てドイツに關して論ずるに當り、金融關係に於ける獨立をも自足の爲の重要條件に數へてゐる。

四

オイレンブルクの所説を要約すれば以上の通りである。廣域經濟の問題に關して特に重要な戰爭經濟の要因を殆ど無視してゐる點は批判さるべきであらうが、單に廣域經濟の目標を語るに止まる論者に對して、かゝる目標の實現さるべき前提條件の檢討を必要とした其の主張には首肯すべきものがある。

（註）オイレンブルクの勞作のうち、直接に廣域經濟或はアウタルキーを扱つた論文としてはなほ次の如きものを擧げることが出來る。

Grossraumwirtschaft [Mit Disk.]. in: Weltwirtschaft, 21. I (Jan. 1933).

Autarkie u. Agrarschutz. Theoret. Möglichkeiten u. Grenzen ihrer Verwirklichung. in: Deutsche Agrarpolitik im Rahmen der inneren u. äusseren Wirtschaftspolitik. Im Auftr. d. Vorstandes d. Friedrich List-Ges. hrsg. von Fritz Beckmann, Bernhard Harms [u. a.] T. I. 2 u. Erg. T. Berlin 1932.

10) Eulenburg, a. a. O. S. 22.
11) Eulenburg, a. a. O. S. 16.
12) Eulenburg, a. a. O. S. 26.
13) Eulenburg, a. a. O. S. 44.